

沖縄最南端の石垣島で合同訓練

投稿:琉球水難救済会

平成22年11月26日、冷たい北風の吹く南国沖縄の石垣島において、八重山漁業協同組合青年部で構成する救難所員及び八重山地区のマリンレジャー業関係者で構成する救難所員等関係者約50名余りが参加し、八重山地区救難所員合同訓練を開催した。



訓練の開催にあたり、琉球水難救済会比嘉会長、石垣市海上保安部長、八重山漁業協同組合長の激励のお言葉の後、石垣市消防本部職員と沖縄ライフセービング協会職員等が講師となって信号紅炎、心肺蘇生法、AED、ライフスレッド等の訓練を開始した。



信号紅炎は数メートルの北風の中で、燃え盛る信号の炎や燃えカスが体に降りかからない姿勢で、しかも視認する対象者からよく見えるような持ち方、また講師が海中に入り信号紅炎を点火する等の学習をした後に各救難所が実演した。

心肺蘇生法とAEDは石垣市消防本部職員が持参した数体の訓練用ダミとAEDを使い本番に沿った演習を全員で体験した。



最近では、人命救助の手助けができるようにと、県内各地の身近なところにAEDが設置されるようになり、当会としても救難所員全員が心肺蘇生法やAEDの取り扱いを習得することを積極的に推進していたことから、漁協及びレジャー関係救難所員等は「初めて体験した。自信が付いた」と感想を述べていた。

午後からはライフスレッドを装着した水上オートバイを使用しての、泳者の救助を想定した訓練を企画したので、リゾートホテルのあるフサキビーチに場所を移した。

ライフスレッドを装着した水上オートバイでの救助訓練は、真冬を思わせるような気象条件



の海上で行われたため、砂浜で思い切りランニングした後、各人がペアーを組んで訓練を開始した。ライフスレッドはレジャー関係救難所員が特に興味を持って対



応し、予定時間を超過して訓練を終了した。

八重山地区は、漁業活動及び海浜でのレジャー、マリンスポーツ等も盛んで県内外からも多くの観光客等が訪れている地区であることから無事故を願い、今後も積極的に訓練を実施する所存である。